

# 2009年沖縄週間/沖縄の旅 参加のごあんない

6月19日（金）～22日（月）



## 命<sup>ぬち</sup>どう宝<sup>たから</sup> ～本当に武力は必要か？～

夜は更け、日は近づいた。  
だから、闇の行いを脱ぎ捨てて光の武具を身に着けましょう。

ローマの信徒への手紙 13:12



「私たちが本当に手にすべきもの」

数年前、日本の青少年たちがナイフを日常的に持ち歩いていることが問題となりました。そのナイフを突発的に取り出し、学校の教師や友人などを刺し重傷を負わせたり、時には命を奪ってしまうことが頻発したのです。

このような事件で加害者となった青少年たちが「凶器となったナイフを、なぜ日常的に持ち歩いていたのか？」という質問に対して、こう答えています。「護身用のため。これを持っていれば、自分がいじめられそうな時、相手に逆襲できるから。実際に使わなくても持っているだけで安心だし、自分自身が強くなれるような気がする」と。しかし、こうも続けます。「持っているだけで本当に使う気はなかった。でも、カッとなり気が付いたら・・・」。

確かに、本当にナイフなど使う気がなかったのかもしれない。本気で護身用のためと考えていたのかもしれない。しかしこの考えこそが“ナイフを手にする”ということの本当の意味を捉え損じ、“ナイフ”というものの自体が持つ恐ろしさを見失わせることとなるのです。

私たちが住む日本も、実は今、これらの青少年たちと全く同じ状況にあると言えます。

「我が国の平和と独立を守り、国の安全を保つため、直接侵略及び間接侵略に対し、我が国を防衛することを主たる任務とし、必要に応じ、公共の秩序の維持に当たる」  
「自衛隊法第3条第1項」より

この条文のもと、私たち日本人は自衛隊というナイフを、今、手にしています。しかし、このナイフは護身用と呼ぶには、あまりに危ういものです。世界各国を凌ぐ軍事力を注ぎ込み、近年は“国際貢献”、“世界秩序への協力”と称し、その働きを自衛以外のものにまで徐々に拡大しています。

もはや、私たち日本人は、護身用と称するナイフではなく、あからさまに世界に脅威を与えるほどの武力を手にしてしている事実を強く自覚しなければなりません。しかし、私たち日本人は依然として手に凶器を握ったまま、それを正当化するために、声高に「自衛のために！！」と叫びます。

今、私たち日本人は“その脅威が、その武力が、本当に自衛のためになるのか？そもそも、それらが今の私たち日本人に、本当に必要なのか？”ということを深く考えなければなりません。その考察なしに武力を手にするのは、ナイフを手にした青少年たちと同じ結末をもたらすだけです。

実際に人を傷つけてから、それを学んでは遅いのです。むしろ、私たち日本人は自らが犯した戦争の過ちへの償いの途中、また、自らが負った戦争での傷を癒している途中のはずです。今、私たち日本人が本当に手にすべきものが武力や凶器なのか？それとも別の何ものなのか？また、光の武具を身に着けるとは？それを共に考えてみましょう。

※2006年第56(定期)総会にて、これまでに続いて「沖縄週間」の継続が決議されました。

これは、日本聖公会の全教区・教会が沖縄の現実に思いを寄せ、私たち自身が主の平和を求めて祈ることを目的とするものです。

沖縄教区と日本聖公会正義と平和委員会は、この週間にあわせ、沖縄の歴史及び現在を学ぶ旅を行い、全国の皆さんをお誘いしています。ぜひ、多くの方々のご参加をお待ちしています。

---

---

## 沖縄週間の祈り

歴史と生命の主である神よ、私たちを平和の器にしてください。

嘆きと苦しみのただ中にあなたの光を、

敵意と憎しみのただ中にあなたの愛と赦しをお与えください。

私たちの出会いを通して悲しみの中に慰めを、痛みの中に癒しを、疑いの中にあなたへの信仰を、主よ豊かに注ぎ込んでください。

この沖縄週間を通して私たちを新たにし、

あなたの示される解放と平和への道を歩む者としてください。

私たちの主イエス・キリストのいつくしみによって、

このお祈りをお献げいたします。 アーメン

---

---

主催 日本聖公会 沖縄教区宣教部  
日本聖公会 正義と平和委員会

(2009年3月1日 日本聖公会)

## 参加のしおり

### \*航空券手配について\*

開催初日6月19日(金)の宿泊先とともに、市販の「ホテルパック」で手配されることをお勧めします(航空券とホテルを別に取りよりも安く購入できます)。各地発および帰りの沖縄発の時間はできる限りプログラムに支障のないようにご設定ください。

### \*宿泊について\*

- ・19日の宿泊先は、翌20日のプログラムの出発地が小禄聖マタイ教会ですので、那覇市内で、なるべく小禄聖マタイ教会に近いホテル(地図参照)をご手配ください。(19日は21:00に解散後、各ホテルへ。20日は8:00までに「小禄聖マタイ教会」集合となります。参加者には後日詳細をお知らせします。)
- ・費用を抑えたい方は、19日、小禄聖マタイ教会への宿泊等も手配できます。
- ・20・21日の宿泊先は基本的には当方で手配します。

—問い合わせ先—

+ 小倉インマヌエル教会 司祭 柴本 孝夫 +

TEL/FAX: 093(551)0006

ホテルパック手配のことなど遠慮なくお問い合わせください。

### \*費用(概算)\*

- ・19日 ホテルパック(各自)
  - ・20日 教会分宿-2, 500円
  - ・21日 ホテル-6, 000円程度
  - ・フィールドトリップ参加費-5, 000円
  - ・19・22日移動レンタカー料(参加者で頭割り) -各2, 000円程度
  - ・食事代(19日夕・20日昼・21日夕・22日朝・22日昼) -3, 000円程度
- 合計金額 各地からのホテルパック + 18, 500円程度

### \*集合時間・場所\*

13時までに那覇空港1階「到着口B」付近へ。係の者が立っています。各自昼食を済ませてお集まりください。

### \*19日受付から参加する方の集合場所\*

沖縄教区センター・ベッテルハイムホール

浦添市前田3-3-5 TEL098(942)1101 FAX098(942)1102

那覇空港からモノレール「ゆいレール」で儀保(ぎぼ)駅まで(料金290円 所要時間25分)。儀保駅からはタクシーを利用。「前田3丁目のサンレーグランドホール前ベッテルハイムホール」と言ってください(料金約800円。所要時間10~15分)。

### \*スタッフ\*

- ・沖縄教区宣教部: 部長 高良孝太郎司祭、富本盛彦、上原榮正司祭、  
岩佐直人執事、高良孝子、谷 昌二主教
- ・正義と平和委員会: 下原太介司祭、中村真理、佐藤由佳、柴本孝夫司祭

### \*締め切り\* 5月11日(月)

〒162-0805 新宿区矢来町65番地 日本聖公会管区事務所 正義と平和委員会宛  
電話03(5228)3171 FAX03(5228)3175

# 2009年沖縄週間/沖縄の旅 プログラム

6月19日(金)～22日(月)

今回は、「命どう宝 ～本当に武力は必要か?～」というテーマのもとプログラムを構成しています。以下、トピックを記します。

- 19日 : 集合し、那覇市内ウォーキング。平和通り・壺屋・公設市場など。夜、沖縄教区センターにて基調講演。
- 20日 : 8時小禄聖マタイ教会集合。8時30分、教区センターを經由し、辺野古へ。辺野古新基地建設阻止活動に参加。夕、名護聖ヨハネ教会にて分かち合い。そして教会分宿へ。
- 21日 : 分宿先教会の主日礼拝に参加、午後、沖縄教区行事「慰霊の日」礼拝に参加。夕、交流会
- 23日 : 南部戦跡、とくに南風原陸軍壕を平和ガイドの説明を受けつつ見学。13時頃解散。解散後、那覇空港まで送ります。

日 時\	1日目 6月19日(金)	2日目 20日(土)	3日目 21日(日)	4日目 22日(月)						
8:00		8:00 出発 (小禄聖マタイ教会 集合)		ホテルよりバスで移動						
9:00		8:30 教区センター		各宿泊教会の礼拝 に出席	南部戦跡 南風原陸軍壕、 旧海軍司令部壕ほか					
10:00		辺野古新基地建設 阻止活動に参加				昼 食	昼 食 閉会礼拝			
11:00								集合・出発(那覇空港)	沖繩教区行事 「慰霊の日」礼拝参加 会場:北谷諸魂教会 講演:寺澤征一氏	解 散
12:00										
13:00	分かち合い 会場:名護聖ヨハネ教会	各教会分宿へ 分宿先教会での交流 各教会に分宿	ホテルへ移動 途中、夕食							
14:00	本受付(沖縄教区センター) 開会礼拝・オリエンテーション 夕 食			小禄聖マタイ教会 にて交流会						
15:00	基調講演 池住義憲氏 (イラク派兵違憲訴訟の 「違憲判決」について。 非武装の勧め。)	就寝前の祈り 各宿泊場所にて就寝								
16:00	就寝前の祈り 各宿泊場所にて就寝		各ホテル	各教会に分宿	ホテルラッソエアポート					
17:00	各ホテル	各教会に分宿				ホテルラッソエアポート				
18:00	各ホテル		各教会に分宿	ホテルラッソエアポート						
19:00	各ホテル	各教会に分宿			ホテルラッソエアポート					
20:00	各ホテル		各教会に分宿	ホテルラッソエアポート						
21:00	各ホテル	各教会に分宿			ホテルラッソエアポート					
宿泊	各ホテル		各教会に分宿	ホテルラッソエアポート						



## 旅に用意するもの・服装の注意

\*この週間の実施期間は、ちょうど沖縄の梅雨明けの頃になります。

この頃の雨は、一日中降り続くといった降り方ではなく、朝夕に夕立のように、サッと降ってすぐに雨が上がります。簡単な雨具〈折り畳みの傘、ビニールの雨具〉を用意しておくとい良いでしょう。

\*沖縄の6月下旬の気候は、本土各地の盛夏の頃の気温と日差しです。

日中の強い陽射し(紫外線)を避けるため、「つばのある帽子」は必需品です。

今回は、とくに辺野古での基地建設阻止の座り込み参加がありますので、各自必ず用意してください。また水筒も必ず携行してください。

\*強い日差し(紫外線)を避けるための工夫を、各自あらかじめ考えておくのもよいでしょう。

特に肌の弱い女性の方は、日焼け止めクリーム、袖のある上着(薄手の長袖シャツ)、日傘、サングラスなどの用意を!

☆旅の服装で注意したいポイントは、

1. 汗を吸う素材のもの(木綿などの素材)。
2. 半ズボン、キュロットスカート、コットンスラックス、ジーンズなど、暑さを防いで動きやすい(リラックスできる)もの。
3. 着替えは十分に用意してください。
4. 行き帰りの飛行機の中は冷房(空調)が少し寒いくらいですので、機内で羽織る上着などは各自の判断でご用意を!
5. 移動が多いため、歩きやすい靴を履いてこられるといいと思います。

◎プログラムの中で、沖縄教区の教会に参加者が分散して宿泊し、沖縄教区の信徒の方々との「分かち合い」の機会があります。参加者の地元の名産(1,000円程度のお菓子など)をお土産にするのも、話題の一つになるかと思います。

(尚、これは自己負担です。強制ではありません。)